

2月11日(土)

第2会場

14:50~15:50

国際会議室

ペーシングリードの特性と選択

【概要】

デバイス治療において、急性期から慢性期まで安定した治療効果を得るためには、個々の病態に応じた機種選択のみならず適切なリードの選択が不可欠である。最近のデバイス治療の適応拡大とともにリードの選択も多様化してきている。残念ながら、リードの選択は機種の選択と比較して重要視されておらず、しばしば機種と同一メーカーのリードが安易に選択されている。安全で確実な治療を行うためには術者が使用する最適なリードを選択し、また選択したリードの特性を十分に理解して手技に望む必要があることは論をまたない。しかし、リードの特性が話題に大きく取り上げられることは少なく、また選択方法についても議論が尽くされたことは無い。

本セッションでは、古典的ではあるが今なお重要なテーマであるハード面（材質、形状、極性等）からみたリード選択の基本的考え方、機能的な側面からはセンシング特性、ペーシング特性からみたリード選択について、また進歩が著しく新たな局面を迎えているICDリード・左室リードなどに関する選択の現状について、そして最後に実際の植込みに際し左上大静脈遺残や特殊な状況下での留置困難例に遭遇した場合のリード選択法にスポットをあてて、総合的なディスカッションを行いたい。

〔座長〕 中島 博 板橋中央総合病院循環器科・不整脈・心不全診療部
中里 祐二 順天堂大学医学部附属浦安病院循環器内科

1. デバイス治療におけるリード選択

板橋中央総合病院循環器科・不整脈・心不全診療部 ○中島 博

2. ICD・左室リードにおけるリード選択

名古屋第二赤十字病院循環器センター内科 ○吉田 幸彦

3. 留置困難例におけるリード選択

順天堂大学医学部附属静岡病院循環器科 ○戸叶 隆司